

文科省に聞く！

魅力ある教育を世界に発信し オールジャパンで国際化を促進

量的には「留学生30万人の受け入れ」という目標を、質的には「世界により開かれた国になる」という目標を立てて、オリンピック・パラリンピックの開催が予定されていた2020年度を目標に、高等教育の国際化を推進してきました。コロナ禍を経た今後は、一度は目標を達成した留学生数の回復とともに、質的目標の実現に力を入れていきます。ポイントは、これまで国際化をけん引してきた大学等の実績を横展開することです。一部の大学だけでなく、日本の高等教育全体が世界への視点を持ち、多様な魅力を発信する必要があります。「大学の国際化促進フォーラム」では横展開を促し、自律的に取り組みが発展する組織づくりをめざしています。

フォーラムは、プロジェクトの主幹となる幹事校と会員校で構成されています。幹事校に期待するのは、自プロジェクトに加わる大学を先導するだけでなく、他プロジェクトとの連携を探る役割です。プロジェクト内の連携、プロジェクト同士の連携と、横展開が重層的に進めば、各校が多様な視点で国際化を進められるはずです。それを実現するためにも、より多くの大学のフォーラムへの加入を願っています。他校と協働する過程で、国際化における自学の進展度合いやめざす立ち位置も見えてくるのではないのでしょうか。

フォーラムの中核的な役割を果たすプロジェクトが、オンライン国際教育プラットフォーム「Japan Virtual Campus」構想です【図表3】。国内外の大学等が作成したオンライン教育コンテンツを、国内外の組織、個人に有償で提供するシステムで、提供のしかたが異なる2つの「BOX」を備えています。「戦略的パッケージBOX」は、世界的にニーズが高いと思われるコンテンツを国内外の大学等と協力して構築し、パッケージ化して提供するものです。日本の教育に対する認知度を高めるための、いわば「オールジャパン」のコンテンツ群です。パッケージ修了者には、単位やマイ

「大学の国際化促進フォーラム」で大学間連携を支援 世界に開かれた日本の大学々々を実現する

文部科学省 高等教育局
主任視学官
高等教育国際戦略PTリーダー
岸本 織江



きしもとおりえ ●1993年文部省入省。
高等教育局学生課企画係長、横浜国立大学准教授、研究振興局学術研究助成課企画室長、内閣府知的財産戦略推進事務局参事官、文化庁著作権課長などを経て2021年10月より現職。

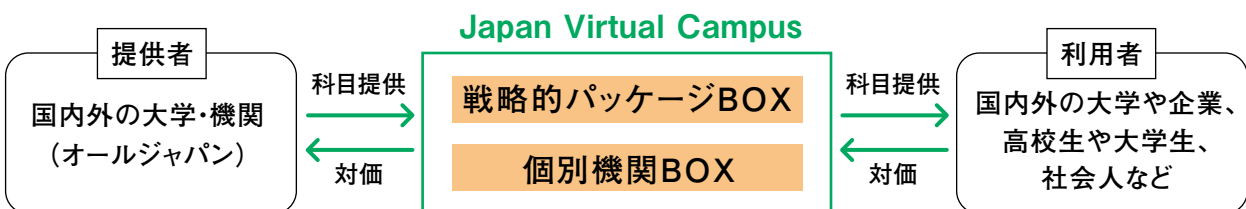
クロクレデンシアル*4などを付与する計画もあります。一方で「個別機関BOX」は、利用料を払えば、希望する全ての大学等がコンテンツをアップできるBOX。各大学が自らの戦略に基づき独自に運営し、世界に向けて自学の教育をオンラインで提供する利用方法を想定しています。MOOCs*5との違いは、個人のみならず大学等の機関による利用も見込んでいる点です。また、コンテンツを提供するだけでなく、海外からのアクセシビリティを高めるためのポータルサイトとして利用し、留学生の獲得につなげるなど、リアルな教育・交流の充実を促すことにも活用できると思います。

国際的な課題に前向きに立ち向かう 人材の育成を期待

現代においては、自国だけで解決できる課題は、ほぼ存在しません。多様な国の人と協調して課題解決にあたる必要があり、そこで先頭に立てる人が日本でも求められています。日本の学生は、国や地球という大きな単位の課題に対して「自分では解決できない」と思いがちですが、自由度の高い大学での学びこそが解決に前向きな姿勢を育てる力になると考えます。海外も含め、さまざまな学生、教員、社会人と出会い、対話を重ねる中で、大きな課題と向き合うための、その人なりの道筋が見えてくるのではないのでしょうか。

フォーラムの活動支援のほかに、海外大学とのジョイント・ディグリーを促進するための制度改正など、今後の高等教育の国際化戦略を現在検討中です。その参考に大学へのヒアリングを行っていますが、皆様からも国際化を進めるにあたっての要望などを、積極的に寄せさせていただきたいと思っています。

【図表3】「Japan Virtual Campus (JV-Campus)」の概要



*国際的オンライン教育プラットフォーム「JV-Campus」開設準備ポータル <https://www.jv-campus.org/> ※筑波大学作成の構想図を基に編集部にて作成

*4 学習を少量の単位で個別認証すること
*5 大規模公開オンライン講座を意味する「Massive Open Online Courses」の略